

作業上の注意

- 22-22頁の故障診断を参照し、順をおって点検する
- キャブレータ エア ジェット コントロール システムのチューブ ジョイントおよびエア通路には、エア ジェットがあるためゴミ、ホコリに注意して作業すること
- エンジン コントロール ユニットの落下したりして強い衝撃を与えると、故障の原因となるため、取扱いには充分注意すること。また、電流が流れているときは、コネクタやカブラの断、接続を行うとユニットに過電圧が発生し、ユニット内回路の損傷につながる可能性がある。必ずメイン スイッチをOFFにして作業すること。

キャブレータ ソレノイド チューブの点検

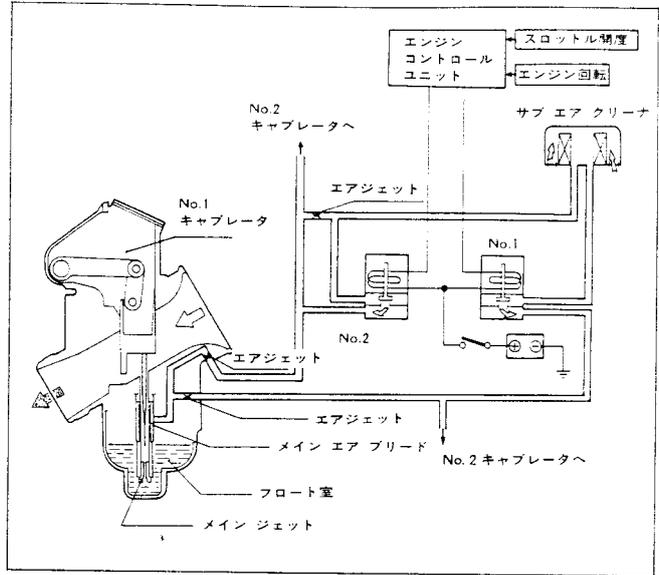
シート カウルを取外す。
 フェーエル タンクを取外す。(⇒4-2)
 エア クリーナ ケースを取外す。(⇒20-29)
 ソレノイドからキャブレータまでの負圧チューブとジョイントに損傷、曲がり等によるつぶれ、外れがないか点検する。
 ワイヤリング図(⇒22-11)を参照し、正しい位置をチューブが通っているか点検する。

バルブの漏れ点検

エア クリーナケースを取外す。(⇒20-29)
 No.1・2ソレノイドの2Pカブラの接続を外す。
 No.1ソレノイドから下側のチューブを外す。
 ソレノイド下側に負圧をかけて、保持できれば正常である。

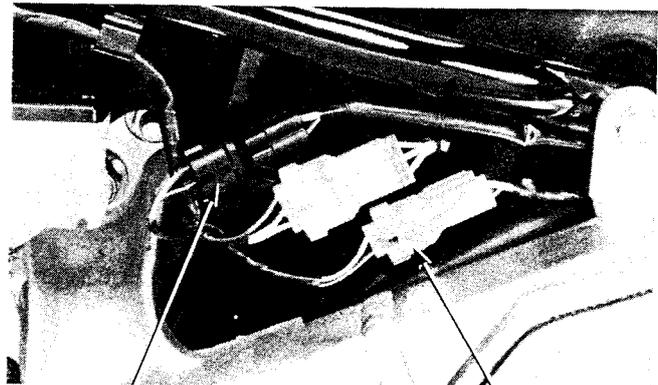


30mmHg以上の負圧をかけないこと。



保持できない時は、ソレノイドを交換する。
 No.2ソレノイドについても同様に点検する。

ソレノイド2Pカブラを接続してメイン スイッチをONにし、上記と同様の点検を行う。負圧が保持できれば良好である。保持できない場合は、エンジン コントロール ユニットのワイヤハーネスの点検を行う。



No.1・2ソレノイドの位置

